

診療所だより

牛の知識 1・2・3

今回の診療所だよりは色々思いつくことを書いてみました。

1、牛のお産について

牛の妊娠期間は二八五日前後であり、種付け日より分娩

(種付け月) - 3 = 分娩予定月・(種付け日) + 10 = 分娩予定日

<例> 10月10日種付
 $10 - 3 = 7$ ・ $10 + 10 = 20$
 <例> 1月26日種付
 (1月、2月、3月は13、14、15月に置換え)
 $13 - 3 = 10$ ・ $26 + 10 = 36$
 (36日という日にちはない)
 $36 - 30 = 6$ (1月繰上り)
 11月6日分娩予定日

予定日を計算するのに、次の様な計算をしていました。

しかし、最近ではこの計算式があてになりません。種の種類によつては、分娩予定より二週間近く遅れて分娩する場合があります。

共済では、分娩予定日より十四日経過しないと、病傷事故(長期在胎という)として認められませんので、分娩誘発剤等は注射できません。予定日を過ぎてもお産しない時は、どれ位の日数が経過しているか計算し、十四日以上経過していたら電話して下さい。
2、最近の母牛は、母性が薄い

「子牛は元気に生まれたけれど、親牛が足を挙げて乳を飲ませない」という電話があります。そんな時は胸締めすると、足の挙がりが少なくなります。又、初乳を少しでも早く飲ませることで、子牛の足取りが驚くほどしっかりしてきますので、家庭にある炊事用のゴム手袋で簡易哺乳ビンを作り、乳をしぼって飲ま

せて下さい。二、三日経つと子牛の方が賢くなり親牛に蹴られない様にして乳を飲む様になります。



3、子牛を舐めない親牛
 寒い夜などに生まれると親牛が舐めない為、体温が奪わ

れ、凍死寸前になる子牛がいるかもしれません。そんな時ボロ布でいくら拭いてもなかなか又メリがとれませんが、乾きも遅くなります。そういう場合はお湯が有効です。シャワーか、タライにとつたお湯で子牛を洗い、乾いた布で拭き上げ、ドライヤーで乾かして下さい。その後、初乳を飲ませれば大丈夫です。
 子牛の価格は高くなつていきます。ちょっとしたことで、儲かるか損するか決まります。大切な財産ですので、自分自身で大切に管理し、他人にまかせにする事のないようにしましょう。